

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和8年 6月 10日

福島県知事 殿

提出者

住 所 福島県耶麻郡西会津町野沢
字北松原甲1031-138

氏 名 株式会社 海 老 名 建 設

代表取締役 小 柴 芳 郎

電話番号 0241-45-2146



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 海 老 名 建 設
事業場の所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢字北松原甲1031-138
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	中分類 総合工事業 小分類 土木工事業・舗装工事業・塗装工事業・管工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 12.0 億円（令和7年度実績）
③ 従業員数	35 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	建設現場 がれき類 木くず → → 中間処理委託（再生骨材） 中間処理委託（木材チップ）

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物担当役員 : (取締役専務)

環境管理委員会 : 抑制の検討・次年度反映 (工事部長・各工事所長)

産業廃棄物統括責任者 : 廃棄物の集計・報告 (工事部長)

産業廃棄物担当 : 工事現場の廃棄物集計 (各工事所長)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現 状	【前年度（令和7年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類	ガラスくず及び陶磁器くず	繊維くず	廃石綿等
	排 出 量	2409.79	197.59t	11.41	1.879t	0.03 t	0.0t	0.0t
② 計 画	(これまでに実施した取組)							
	[がれき類] 発注者と協議し最小限の発生量とした。							
	[木くず] 発注者と協議し最小限の発生量とした。							
② 計 画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類	ガラスくず及び陶磁器くず	繊維くず	廃石綿等
	排 出 量	1500.0 t	500.0 t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t
③ 計 画	(今後実施する予定の取組)							
	[がれき類] 現場施工方法を工夫し、発生量の抑制を図る。							
	[木くず] 現場施工方法を工夫し、発生量の抑制を図る。							

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現 状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	[がれき類] コンクリート有筋、無筋、アスファルトに分別し中間処理場へ運搬した。
② 計 画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	[がれき類] コンクリート有筋、無筋、アスファルトに分別し中間処理場へ運搬する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t
	（これまでに実施した取組）		
	工事現場で発生した産業廃棄物は、自社破砕施設で中間処理を行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t
	（今後実施する予定の取組）		
	自社破砕施設で中間処理し、再生利用は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
自社破砕施設で中間処理は、行っていない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		
自社破砕施設で中間処理は、行わない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	自社破碎施設で中間処理は、行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	自社破碎施設で中間処理は、行わない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和7年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類	ガラスくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	2409.79 t	197.59 t	11.41 t	1.879 t	0.03 t
	優良認定処理業者への処理委託量		0.62 t	1.70 t	1.579 t	0.02 t
	再生利用業者への処理委託量	2409.79 t	197.59 t	11.41 t	1.879 t	0.03 t
	認定熱回収業者への処理委託量					
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	(これまでに実施した取組)					
	[がれき類] 現場施工方法を工夫し、発生量の抑制を図る。 [木くず] 現場施工方法を工夫し、発生量の抑制を図る。					

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	全処理委託量	1500.0 t	500.0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1500.0 t	500.0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	[がれき類] 全処理量を再生利用業者に中間処理委託する。 [木くず] 全処理量を再生利用業者に中間処理委託する。		
	※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

工

- (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成
工
事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が
分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの
一
連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間
処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理
を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を
記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第
6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設
置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業
者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理
委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類
が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき
内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」
を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。